

NGO サポート募金
「チリ 大地震地震緊急支援まとめて募金」
活動報告

2010年5月13日 (特活)国際協力NGOセンター

「チリ大地震緊急支援まとめて募金」概要

開設期間：2010年3月4日から4月3日まで

参加団体一覧（4団体）：

（特活）ICA 文化事業協会

（特活）ADRA Japan

（特活）AMDA

（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン

（以上 50 音順）

総募金額：3,547,935 円

ご寄付者：個人 20 名様、法人 2 団体/社様

特定非営利活動法人 ICA 文化事業協会

2010年5月13日

・ 団体概要：

ICA (Institute of Cultural Affairs Japan) の基本理念は「人間は地域及び組織最大の資源である」を
もとに、独自に開発した人材育成マニュアル ToP (参加型手法) や PSP (戦略的計画立案) を使
い、世界 30 カ国で国際協力事業やニーズ調査、人材育成などを行っている団体である。

・ 代表者： 理事長 佐藤静代

・ 設立年月：1982年10月

・ ホームページ URL：<http://www.icajapan.org>

・ チリ大地震関連支援情報ページ URL：<http://www.icajapan.org/icajapanx/Newsletter/icajnl36.pdf>

【支援地域】

チリ中部コンセプション州と北部のタルカ地域

【支援対象】

コンセプション地域の津波被害を受けた漁師グループ、タルカ地域の障害者団体 1000 世帯

【主な活動内容】

2010年2月27日南米チリ中部でマグネチュード 8.8 の強い地震が発生した。震源地は中部の州都コ
ンセプションの北北東約 115 キロの沖合で、震源の深さは約 35 キロ。震源地に近いチリ第 2 の都市コ
ンセプションでは、建物や橋などが崩壊して火災が発生。震源から 325 キロ離れた首都サンチアゴでも、
強い揺れが観測され複数の建物が倒壊した。3月5日から14日にかけて第1回目の初動調査を行い、タ
ルカとコンセプションを訪問して、ICA チリのスタッフと協同して被災民のニーズ調査と物資配布を行
った。

4月13日～5月6日にかけて、ICA スタッフ 2 名が再度現地へ飛び、ニーズ調査に基づき第2回目の食
料と物資配布を実施している。非食料は、車椅子、洗濯機や毛布などが含まれる。また、被災者参加型
のワークショップを実施し、今後の復興に向けての展望や活動を話し合うワークショップを実施した。

【今後の活動予定】

現在現地にいるスタッフ 2 名 (田村 / エルスワーズ) は 1000 世帯への配布準備と作業にかかっ
ている。ICA チリの協力もあり、配布作業はスムーズに進んでいる。彼らは5月6日に帰国し、第
3回目の出動を計画している。

現地で実施したワークショップの結果に基づき現地での支援内容をまとめ、6月には第3回目の
出動となる予定である。

【活動写真】



初動調査の様子
(右：ICA 佐藤理事長 / 左：JPF 田口氏)



タルカで訪問した崩壊した障害者施設



食料配布の準備をしている様子
(中央：ICA 佐藤理事長)



ホスピスが崩壊したため、野外で被災生活をおくる患者たち

特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)

2010年5月13日

- ・ 団体概要：ADRA は、世界約 120 ヶ国に支部をもち、国連などと協働している国際 NGO である。ADRA Japan は、各国 ADRA 支部とパートナーシップを築きつつ、「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するために、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行なっている。
- ・ 代表者：曾根田健二
- ・ 設立年月：1985年3月30日
- ・ ホームページ URL：<http://www.adrajpn.org/>
- ・ チリ大地震関連支援情報ページ URL：http://blog.canpan.info/adrajapan/category_16/

【支援地域】

チリ共和国ビオビオ州コンセプション県、ニュブレ県、チヤン県、アラウコ県、マウレ州タルカ県

【支援対象】

支援地域の住民

【主な活動内容】

2月27日の地震発生後、チリ政府緊急担当部署 ONEMI (Chilean National Office of Emergency) から支援要請を受け、ADRA は被災地での支援活動を開始した。3月4日以降、ADRA は 1480 世帯 (7400 名) に、1 世帯あたり 5 リットルの水や食料 (小麦粉 5 キロ、食用油 3 リットル、塩 1 キロ、粉ミルク 1 キロ、豆 3 キロ、砂糖 2 キロ、パスタ 1.2 キロ、レンズ豆 2 キロ) を配布した。これらの内容は現地の食文化に見合った適切なもので、1 世帯平均 5 名の 8 日間分の食料に相当する。このほか毛布 2000 枚、マットレス 400 個、テント 200 個、衣料品を配布した。配布は現地行政やコミュニティ・リーダーとの協力の下で実施され、子どもの多い世帯など、支援をより必要としている世帯を優先するように心がけた。また、事業には多くのボランティアが参加し、食料セットの詰め込み、荷物の積み下ろし、物資の配布、情報収集、被災者の訪問などの業務を担った。

また、ADRA と Global Medic (カナダに本部を置く国際 NGO) の協働プロジェクトとして、2 名の技術者が病院、学校、コミュニティに 13 基の浄水装置を設置した。これらの浄水装置は、1 基につき 1 日あたり 1000 名への水の供給が可能なものである。

【今後の活動予定】

チリ政府は、一時避難所の設置のほか、水・衛生と教育の分野の復旧・復興を優先課題としている。3月29日時点の情報によると、7万5000名が一時避難所を必要としており、地方に住む15万5000名が水・衛生サービスへのアクセスをもたず、59万名の子どもたちが通学を再開することができていない¹。ADRA は今後も社会インフラの復旧、水・衛生事業などを実施する予定である。

¹ United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs. *Chile Earthquake Situation Report No. 9*. 29 March 2010.

【活動写真】



1480 世帯 7400 人に食料を配布。



多くのボランティアにより作業がおこなわれた。



支援物資は 5 人家族 8 日間分の食料パック。



クリントン米務長官と就任前のピニェラ・チリ大統領が ADRA ボランティアと面談。(3月2日サンティアゴ国際空港にて)

国連経済社会理事会「総合協議資格」NGO

特定非営利活動法人アムダ (AMDA (The Association of Medical Doctors of Asia))

2010年 5月 13日

・ 団体概要：

「救える命があればどこへでも」

AMDAは相互扶助の精神に基づき、国内外で発生する自然災害被災者への医療を中心とした支援活動を実施しています。「ローカル・イニシアチブ」、すなわち「現地の人が一番良い解決法を知っている」という考えに基づき現場を重視しつつ、「援助を受ける側にもプライドがある」ということを念頭におき活動を行っています。

・ 代表者：菅波茂

・ 設立年月：1984年

・ ホームページ URL：<http://amda.or.jp/>

・ チリ大地震関連支援情報ページ URL：<http://amda.or.jp/articlelist/index.php?storytopic=22&start=0>

【支援地域】

チリ国 第7マウレ州 コンスティツシオン。主に漁村地域や村落部の貧困地域を対象。

【支援対象】

地震・津波の影響で健康、栄養状態に異常の疑いが持たれる乳幼児100名。

(選出は現地の小児科専門看護師)

【主な活動内容】

「チリ地震津波被害における乳幼児緊急支援プロジェクト」

チリ地震後、チリ政府の対応は早いと言われていましたが、私たちが調査に入った時、災害弱者である乳幼児への支援が全くなされていない状況でした。

そこで、チリ地震で被災した乳幼児の健康を維持することを目標として、上記の乳幼児支援プログラムを立ち上げました。内容は、津波被害が大きかったコンスティツシオンにあるアルトセロ診療所と協力し、乳幼児健診と物資配給を実施することです。

実施方法は、診療所の内・外、2グループに分かれ、対象者がアクセス可能なら診療所内で、訪問できない乳幼児の家庭へは車で巡回訪問を行いました。

健診はチリ厚生省の乳幼児定期健診プログラムに基づき、今後も持続可能なものになるよう配慮しました。健診後、看護師・栄養士から保健・衛生・育児指導をしてもらい、物資を配給する流れとしました。また、AMDA独自アンケート調査とチリ厚生省の母子健康手帳を使用し、経過観察に繋がられるようにしました。

実施日は、チリ政府タルカ基地軍が物資の移動や安全確保を支援してくれ、チリ政府緊急医療チームが乳幼児健診を手伝ってくれました。

結果は、地震の影響で健康や栄養状態に異常がでた乳幼児は発見されませんでした。アフターフォローとして、巡回訪問した地区で、集団保健指導を実施しています。

このように、安全・確実・迅速な実施が可能になったのは、チリ政府地震緊急対策タルカ本部や第7州タルカ保健省の協力を得てスムーズな情報収集ができたこと、物資調達はチリのミドリ十字薬局が支援してくれた等、現地リソースを十分に活用した支援体制を整えることができたからだと思います。

【今後の活動予定】

人的支援は今回で終了となりますが、今後、現地の要望があれば再び支援をしていく考えであります。

【活動写真について】



地震緊急対策タルカ本部で打ち合わせする
津曲医師



津波被害に遭ったコンスティツシオン沿岸部



現地スタッフと



巡回型乳幼児健診の様子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

2010年 5月 13日

- ・ 団体概要：
国連経済社会理事会に公認・登録された国際 NGO、ワールド・ビジョンを構成する日本の民間援助団体です。キリスト教精神に基づき、開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（市民社会や政府への働きかけ）を行っています。
- ・ 代表者： 片山信彦
- ・ 設立年月：1987年10月
- ・ ホームページ URL：www.worldvision.jp
- ・ チリ大地震関連支援情報ページ：http://www.worldvision.jp/news/news_0451.html

【支援地域】

サンティアゴ、コンセプション、ディチャト、コリウモ、ロタ、コロネル、サン・カルロス、サン・イグナシオ、テムコ、タルカフアノ

【支援対象】

チリ大地震で被害を受けた人々、特に子どもたち

【主な活動内容】

地震発生直後は、緊急人道支援専門スタッフを派遣し、被害状況を把握し、地域の人々の安全を確認するため調査を行いました。そして地震の被害を受けた人々へ食糧、水タンク、浄水剤、衛生キットや毛布などの配布を行うなど、現在までにワールド・ビジョンは約 20,000 人の人々を支援してきました。

また、震災によって心身ともに大きな傷を負った子どもたちが安心できる場所、チャイルド・フレンドリー・スペース（以下 CFS）を 38 カ所で開設。CFS に子どもを参加させている親の多くが、地震と津波によって全てを失いました。新しい生活の場を見つけるための不安や、次の食事はいつになるのかという不安は、親が子どもたちと一緒に過ごす時間に影響します。

子どもや青年期の若者を専門とした心理学者、教育者によるチームが CFS で行われる活動を管理し、多くの子どもたちが楽しさを感じ、勉強に戻るだけでなく、友だちや専門家と話すことによって、心の傷を癒し、子どもらしさを取り戻すための時間を過ごすことができます。食糧の配布も行い、現在までに 8,500 人以上の子どもたちが、必要な身体的・心理的ケアを CFS で受けることができました。

【今後の活動予定】

まだ支援を必要としている地域で、今後も 75 カ所に CFS を建設していく予定です。また、地震で被害を受けた 500 世帯に仮設住宅の支援を行い、多くの家族が安全な環境で生活ができるように活動していきます。

【活動写真】



調査を行うワールド・ビジョンのスタッフ



C F Sに参加する子どもたち



毛布を配布するワールド・ビジョンのスタッフ



C F Sでゲームをする子どもたち

